

【指定テーマ2 海事教育の現場から】

《活動報告》

## 海洋国家日本の社会科の在り方を問う

—「世界につながる尾道糸崎港」授業紹介—

村上 忠 君

(広島大学附属三原小学校)

### 目 次

1. はじめに
2. 教材研究「世界につながる港」
3. 単元「世界につながる港—生活を支える海運—」を事例として
4. 授業実践より
5. おわりに

#### 1. はじめに

海で囲まれた国が、すべて海洋国家というわけではないらしい。海洋国家とは、島であるとか国土の何%以上が海で囲まれているからというような地理的条件で定義されていないようだ。経済的にも文化的にも政治的にも海との関わりが強い国家を指している。

そのような視点で我が国を観たとき、四方を海で囲まれている我が国は、領土の面積では、世界ランキング61位であるが、排他的経済水域を含めると、ランキング6位となり、海洋大国となる。では、海洋国家なのだろうか。海洋国家の定義から考えると、どれだけ暮らしの中に、海との関わりを意識しているかということが重要な点となるのではないだろうか。我が国は、暮らしの基本である衣食住についても、経済を支えているエネルギー資源や原材料にしても、すべてと言って良いほど、海外に頼っている。これらのことについては、社会科を通して学んでいる。「何を」「どこから」「どれくらい」と物品やその数量、輸入先や輸出先などについて学習を行っている。

しかし、「何によって」という手段については、「船や飛行機」という程度のものだ。これで、海洋国家の社会科学習と言えるのだろうか。せいぜい「日本は、海外との輸出入で成り立っている国ですよ」というくらいのものだ。我が国は、海からの供給なしでは成立し得ない国である。海で囲まれている以上、海外との輸出入の手段は、「船舶」か「航空機」に限られる。航空機は、その性質上、重量が軽く高価なものに限られる。例えば、高級ブランド品やコンピュータ部品などである。しかし、これらは生活必需品ではない。我々の生活必需品やエネルギー資源や工業原料などは、すべて「船舶」によって運ばれている。貿易の99.6%（重量ベース）は、「船舶」が担っているのである。現行社会科学習指導要領では、「海運」は重視されていない。次期社会科学習指導要領においては、「海運」の内容を垣間見ることはできるが、学校現場でどのような重要度で学習されるのか定かではない。

これで海洋国家の社会科といえるのだろうか。同時に、この程度での学習で、我が国は海洋国家と言えるのであろうか。「海運」が絶たれる時、日本は危機的状況に陥る。それは、歴史がはっきりと証明していることである。船が何の心配もなく、安全に航行していることこそが、平和というものではないだろうか。

海洋国家日本としての社会科とは、どのようなものだろうかという問題意識をもちながら、これまで「海から観た社会科」をテーマに教材開発を行ってきた。この度、その授業実践の一部を報告するものである。

## 2. 教材研究「世界につながる港」

今回、担当した学年は、小学校4年生である。小学校の中学年では、地域を教材として学習を行う。社会科が始まる小学校3年生では、市町が学習の主な範囲である。4年生では市町から県レベルへと広がっていく。けれどもその範囲に留まらない。学習指導要領や教科書の記述を注意深く読むと、「世界とのつながり」を意識した単元を見いだすことができる。例えば、3年生では「スーパーマーケット」を取り扱った教材には、その品物がどこから来ているのか調べる活動がある。そこでは、外国とのつながりに気づかせる学習が構成されている。また4年生では、県と世界とのつながりをとらえさせるために「港」を扱った単元も見られる。

広島大学附属三原小学校は、陸海空の交通の要衝である広島県三原市の中心街に位置している。目の前に、JR山陽線、JR呉線、山陽新幹線と3本の路線が入っている三原駅がある。屋上からは、三原港を見ることができる。「三原港」、正しくは「尾道糸崎港」の一部であり、糸崎港の内港にあたる。「尾道糸崎港」は、三原市と尾道市そして福山市松永に跨がる東西約18kmの重要港湾である。今回は、この「尾道糸崎港」を教材化した。

東西18kmに及ぶ尾道糸崎港は、地元に住む我々であっても、それが一つの港であるとは思ってはいない。「三原港」「糸崎港」「尾道港」「松永港」とそれぞれが別の港だととらえている。けれども三原から松永までの海岸線に、水の補給や修理を待つ内航船が数隻停泊しているのをよく見かける。このような光景を見ると、確かに一つの港であることが理解できる。「尾道糸崎港」の最大の特徴は、国内有数の原木拠点港であることだ。全国第2位（2011年）の原木輸入量を誇っている。（第1位は呉港で、これも広島県である。）

しかし、本学級の児童は、大量にあるはずの原木を見たことがない。本学級の児童は、三原市や尾道市、福山市、竹原市、東広島市から通っているが、その原木を目にしたことがないのである。いったいどこにあるのだろうか。実は、これら原木は尾道糸崎港の機織地区と呼ばれる福山市松永町松永湾の貯木場で水中乾燥されている。だから三原、尾道、竹原、東広島から通う子どもは見たことがないのである。福山から通う子どもも、電車通学であり、J R山陽線から松永湾は離れているため、貯木場を見ることができない。

では、なぜ尾道糸崎港の機織地区（松永）に貯木場があるのだろうか。広島県自体、木材産業が盛んであり、輸入材では全国の約25%（全国1位）のシェアを占めている。中でも機織地区に隣接している福山市や府中市は、広島県内の家具や建材等の木材関連企業の約40%が集まっている。歴史的にも、「府中市の家具」「松永の下駄」「福山の琴」といった木材と深く関わる産業が発達していたのである。これだけでも、地域学習として十分に授

業を構成できる。しかし、海運との関係についてはさほど深くない。

さらに、尾道糸崎港機織地区について調べていくと、原木を貯木場まで運ぶ行程に不自然なものを感じた。それは、海外から輸入される原木は、木材専用船で貯木場まで運ばれていると考えていたのであるが、尾道糸崎港機織地区では、貯木場の手前の、沖合泊地という所で、原木を海に投下し、そこで原木を筏に組んで、貯木場まで他船で曳航しているのだ。これは、とても非効率なことである。

そこで、よぎったのは港の水深である。我が国の海運の大きな課題の一つに、「港の水深が浅く、大型化する船舶に対応できていない」ことが挙げられている。尾道糸崎港機織地区にも同様な課題があるのでないかと考えられた。

船舶輸送の最大の利点は、「一度に大量の貨物を運ぶことができる」ことにある。それ故、近年は船舶の大型化が進んでいる。中でも海運の中心となりつつあるコンテナ船の大型化の進展は早く、全長 400m に及ぶものも登場している。それに伴い、港の水深が大きな課題となる。世界最大のコンテナ船が必要とする岸壁水深は 18m であるが、我が国では水深 16m が最深で、全国併せて 10 バースである。世界最大級のコンテナ船を建造しても、二度と日本に寄港することはない。この水深の浅いことが、アジアのハブ港の座を上海港やシンガポール港、釜山港にゆずる要因の一つとなっている。

尾道糸崎港もその例外ではなく、木材専用船の大型化により、港の水深が問題となっている。32,000 t 級の運搬船では、港の水深が 10m 必要であるが、沖合泊地までの航路は水深 12m だが、沖合泊地の水深は 10m である。しかし、泊地から貯木場までの水深は 10m 以下であるので、木材専用船は沖合泊地までしか入港することができない。よって原木を投下するしかなく、前述のような方法で貯木場まで運ぶ方法をとっていたのである。現在も水深 12m への浚渫工事は続いている。

以上のような教材研究の結果、尾道糸崎港を用いて学習することにより、次に挙げる学習効果が期待できると考えた。

- 地域教材は、学習への意欲化を図ることができる。しかもその港が、日本を代表する原木輸入港であることを知ることにより、学習意欲をさらに育てることができる。
  - 東西 18 km に及ぶ尾道糸崎港の地形的特徴から、港は地形ではなく、機能であることをとらえさせることができる。
  - 「日本で第 2 位の原木輸入港なのに、原木が見当たらないのは何故か」「貯木場まで、木材専用船で運べばいいのに、沖合泊地で原木を投下し、筏に組んで貯木場まで他船で曳航しているのは何故か」という「～なのに、～何故か」の形式の学習問題を構成することができる。この形式の学習問題は、既存の知識では説明できないことを意識づけるものであり、学習意欲を育てるとともに、社会的事象間の関係をとらえることで、社会的認識を育てることができるのである。
  - 尾道糸崎港の課題は、我が国の港湾の課題の典型であり、尾道糸崎港を学習することを通して、我が国の海運における港湾の現状をとらえることができる。
  - 世界の港湾との比較する学習活動を通して、我が国の港湾の現実を知ることになるので、世界の主要港湾の存在に気付くことができる。
- これらのことによって、授業を構成していったのである。

<尾道糸崎港>



<https://www.pa.cgr.mlit.go.jp/hiroshima/kyosoryoku/onomichiitozakiko.html> より転写

### 3. 単元「世界につながる港—生活を支える海運—」を事例として

#### 3. 1 単元名 世界につながる港 ～生活を支える海運～

#### 3. 2 単元設定の背景

尾道糸崎港は、三原内港から糸崎港、木原、尾道港と松永港に至る全長18kmに及ぶ港である。この港は広島県の重要港湾の一つであり、貿易を行っている国際港である。中でも、松永港は我が国の重要な原木輸入港であり、原木輸入量は国内第2位(2011年)である。これは松永の下駄(全国生産量の60%)や福山の琴(全国生産量70%)、府中家具(主要家具産地)といった歴史的な背景をもつ木材加工産地も近く、近年では住建材として加工され、各地に送り出されている。そのような木材のハブ港の役割も果たしている。また、船舶の大型化が進む中、それに対応するように松永港の浚渫工事が進められている。尾道糸崎港を学習することは、県内の産業の結びつきや港湾を通じて世界と結びついている我が国の姿、また海洋国家としての港湾の課題にも触れることになると考え、本単元を設定した。

#### 3. 3 単元の目標及び計画(全4時間)

##### ■単元の目標

県内の人々の暮らしや産業と国内の他の地域とのかかわりを理解するとともに、自分たちの地域の港湾について学習を通して、海運の大切さや外国との結びつきについて考えることができるようにする。

■単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
県内の人々の暮らしや産業と国内の他地域や外国とのかかわりについて関心をもち、意欲的に調べている。	県内の人々の暮らしや産業と国内の他地域や外国とのかかわりについて、学習問題や予想、解決に向けて自分の考えを表現している。	県内の人々の暮らしや産業と国内の他地域や外国とのかかわりについて、歴史や文化、交通や運輸などの必要な情報から読み取っている。	県内の人々の暮らしや産業は、貿易、交通、歴史や文化などによって、国内の他地域や外国とのかかわっていることを理解している。

■単元の計画

- 第1次 広島県の港 . . . . . 1時間
- 第2次 尾道糸崎港 . . . . . 1時間
- 第3次 尾道糸崎港（機織地区）. . . . . 1時間（本時）
- 第4次 入港船舶隻数日本一（因島土生港）. . . . . 1時間

3. 4 本時の学習

■目標 「尾道糸崎港」の松永港が大型化する木材専用船に対応するために水深12mに浚渫している事実をもとに、我が国の港の深さが、大型化するコンテナ船に対応し切れず、貿易船の入港数が減少している現実をとらえている。

■準備物 （教師）尾道糸崎港地図 尾道糸崎港の輸入貨物取扱量のグラフ  
貯木場までの原木の運搬 松永港海図  
我が国港湾への貿易船入港状況 大型化するコンテナ船  
日本一船の出入りが多い港  
（児童）船ってサイコー 船ってサイコー下敷き

■学習過程

※（全）（小）（個）：学習形態（全：全体の場 小：小集団 個：個人）（評）：評価の観点

学習事項	児童の活動	教師の働きかけとねらい	（集 団）
1. 学習問題への接近	(1) 尾道糸崎港の輸入貨物の取扱量のグラフを見て、気がつくこと分かることを発表する。 ・尾道糸崎港も貿易に関係している。 ・輸入のほとんどが原木だ。  (2) 尾道糸崎港の原木取扱量は、全国で第2位(56万4千t:2011年)であることを知らせ、尾道糸崎港のどこで取り扱っているのかを予想する。 ・原木(丸太)で何をするのだろうか？ ・三原や糸崎では、見たことがない。	(1) 輸入の96%は原木であることから、これらは尾道糸崎港のどこの港に運ばれているのか予想させる伏線とする。 ・原木はアメリカやニュージーランドから輸入されていることを知らせる。  (2) 府中市の木工家具、福山市の琴、松永の下駄など、原木を原材料として用いるものについて想起させ、松永港を推理させる。 ・三原港や糸崎港、尾道港には原木が見られないことを経験的に想起させる。	（全） 学習へ対しての意欲化を図る。

	<p>(3) 貯木場の画像を見て、何で運んだのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・船かトラック？</li> <li>・原木は輸入されたものだ。</li> <li>・日本の周りは海だ。</li> <li>・貯木場は、海にある。</li> </ul> <p>(4) 尾道糸崎港の松永港の貯木場へどうやって運ぶのか予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・船で貯木場まで運んで、そこで降りた。</li> <li>・松永港の手前で降りる？</li> </ul>	<p>(3) 次の点を根拠にして考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これらの原木は輸入されたものであること。</li> <li>・貯木場は海であること。</li> <li>・船で運ばれたことをおさえる。</li> </ul> <p>(4) 児童に自由に考えを発言させるが、そのように考えた根拠も述べさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・松永港の手前で、原木を木材専用船から降りし、筏に組んで別の船で引っ張って貯木場まで運んでいることを知らせる。</li> </ul>	
<p>2. 学習問題の設定</p>	<p>(5) 学習問題を設定する。</p>	<p>(5) 「～なのに、なぜだろう」の形で学習問題を設定する。</p>	<p>(全) 学習問題の醸成を図る。</p>
<p>3. 学習問題の追究</p>	<p>船で貯木場まで運ばいいのに、途中で原木を筏に組んで、他の船で引っ張っていくのはなぜだろう。</p> <p>(6) 学習問題に対して予想を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筏に組んだ方が、貯木場に置いておくのが便利だから。</li> <li>・貯木場の近くで筏に組めばよい。</li> </ul> <p>(7) 松永港の平面図を見て、気がついたことや分かったことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地図上の( )の中の数は何を表しているのだろうか？</li> </ul>	<p>(5) 「～なのに、なぜだろう」の形で学習問題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海に貯木場があることと、船で原木が輸入されていることを児童は知っている。これまでの児童の認識から考えると、海上であれば船はどこへでも行けるものと思っている。しかし、松永湾に入港せずに、湾外で海上へ投下している事実を知る。この段階で、これまでの知識では説明のつかない事実に出会うことになり、学習問題が生じる。</li> </ul> <p>(6) 児童に自由に考えを発言させるが、そのように考えた根拠も述べさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・船の特色（一度に大量に物資を運ぶことができる）から、大きな船の方が輸送コストの面からも有効であることを確認させる。</li> <li>・船が大型化していく事実を提示する。（木材専用船 32,000 t → 38,000 t）</li> <li>・松永湾に入港する木材専用船について次のことを知らせる。 32,000 t の場合、水深 10m 以上が必要であること。 38,000 t になると水深 12m 以上が必要であること。</li> </ul> <p>(7) (-数) に注目させる。 (-10) は、水深 10m を表していることを知らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貯木場近くまで 38,000 t の木材専用船が入港するためには、港の深さは 12m 以上でなくてはならないが、現在は 10m しかないので、大型の木材専用船は入ることが</li> </ul>	<p>(全) または (個) → (全) 各自で予想したことを交流させる。</p>

	<p>(8)「我が国港湾への貿易船入港状況」と「大型化するコンテナ船」の資料から、気がついたことや考えたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・船が大きくなったから、運ぶ量が増えても港に入る船の数が減った。</li> <li>・日本の港に入れるコンテナ船は、9,300 個のコンテナを運ぶ船まで・・・もっと大きなコンテナ船はどうなるのだろうか？</li> </ul>	<p>できないことをとらえさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在も水深 12mへの浚渫工事が行われていることをとらえさせる。</li> </ul> <p>(8)「我が国港湾への貿易船入港状況」では、貿易船の入港が減少している現実を読み取らせる。</p> <p>「大型化するコンテナ船」の資料では、9,300 個を運ぶコンテナ船が日本に寄港できる最大のものであり、大型化するコンテナ船に日本の港の深さが対応していないことをとらえさせる。</p> <p>⑤ 「尾道糸崎港」の松永港が大型化する木材専用船に対応するために水深 12mに浚渫している事実をもとに、我が国の港の深さが、大型化するコンテナ船に対応し切れず、貿易船の入港数が減少している現実をとらえている。</p>	
<p>4. 本時のまとめと次時への発展</p>	<p>(9) 日本一船の出入りが多い港はどこか予想しながら、次時予告とする。</p>	<p>(9) 日本一船の出入りが多い港を知らせ、その理由を予想させながら次時へとつなぐ。</p>	<p>(全) 分かったことや気がついたことを共有する。</p>

※学習指導案中の(全)(小)(個)は、学習形態を表す。(全)は全体、(小)はグループ、(個)は個人。

#### 4. 授業実践より

教師による発問・指示	児童の発言・反応
<ul style="list-style-type: none"> <li>・(尾道糸崎港の輸入貨物の取扱量のグラフを提示しながら)このグラフは、何を表したグラフですか。</li> <li>・このグラフから、気が付いたこと、分かることは何ですか。</li> <li>・この原木は、アメリカやニュージーランドから輸入されています。それだけではなく、わが尾道糸崎港は日本全国のおもてなし港では、第2位です。</li> <li>・ところで、原木見たことある？ これだけ、56万4千tの原木を輸入しているのだから…。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・尾道糸崎港の輸入貨物の取扱量を表したグラフです。</li> <li>・輸入貨物のほとんどが原木です。</li> <li>・原木って何？</li> <li>・(辞書を引いて)原料や材料になる木。加工していない木です。</li> <li>・96%が原木です。</li> <li>・原木が56万4千t輸入されています。</li> <li>・(あちらこちらで)おー！やったあ！</li> <li>・えっ？</li> <li>・あっ！そうかあ！</li> <li>・三原港には、無いよねえ。</li> <li>・どこに置いてる？</li> <li>・どうやって？見学？</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・それじゃ、原木を探してみようか？</li> <li>・(Yahoo 地図を写真でスクリーンに投影しながら) これで。</li>   <li>・はいはい。</li>   <li>・原木、見つかった？</li> <li>・(松永港に近づく)</li>   <li>・はいはい。どうですか。</li>   <li>・ありましたね。ここに。なぜ、松永湾に貯木場があるんだろうね。</li>   <li>・松永の近くでは、どんな物を作っていたかな。</li>   <li>・さすがですね。では、この原木をどうやって、この貯木場まで運んだのでしょうか。この画像(松永湾の周辺の画像を配布)を使って、そのルートをグループで、考えてみてください。</li>   <li>・それじゃ、この資料を見てください。 (原木を貯木場まで運ぶ資料を提示する。) (沖合泊地で原木を投下する画像を見て)</li>   <li>(原木を、筏に組み、他船で曳航する画像を見て)</li> <li>・ここで、学習問題の形にしてみようか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あっ！三原港。もっと近づけて…。</li> <li>・無いなあ～。</li> <li>・糸崎港は？</li> <li>・(あちらこちらで) 無いなあ～。ありません。</li> <li>・次、尾道港。</li> <li>・やっぱり無いよ。</li> <li>・(尾道造船所を見て) あっ！ばら積み船だ。</li> <li>・バルカーだ。バルカー。</li> <li>・無い。 ・見つかりません。</li> <li>・あれ？あれ、そうじゃない？</li> <li>・つまようじみたいなの…。</li> <li>・先生。もうちょっと近づけて！</li> <li>・(大声で、あちらこちらから) あったあ～。 つまようじみたいに並んでいるのが、原木だ！</li> <li>・見つけた！</li> <li>・はい。海に近いからです。</li> <li>・だったら、三原でも尾道でもいいんじゃない？</li> <li>・あっ、そうか。</li> <li>・分かった。福山市では琴が作られていて、松永では下駄が作られて、府中市では家具が作られています。</li> <li>・だから、木を使う産業が多いので、松永湾に原木を置いているのだと思います。</li>   <li>・(グループで相談している。)</li> <li>・はい、(提示された画像を使いながら) ここから、貯木場まで木材専用船で運んできて、原木を降ろすと思います。</li> <li>・同じです。</li> <li>・はい、船の良いところは、一度にたくさんの物を運ぶことができるところです。</li>   <li>・え～。なんで？</li> <li>・なんで？こんな所で(原木を)降ろすん？</li> <li>・ここで、降ろして、トラックに乗せて運ぶのだと思います。</li> <li>・それは、おかしいと思います。なぜなら、船の良いところは、一度にたくさん運べることです。ここで降ろして、トラックに乗せて運んでいたら、船で運んできた意味がありません。船で貯木場まで運んだ方が楽だと思います。</li> <li>・そうかあ。</li> <li>・え～。他の船で運んでる～。 (口々に) なんで？どうして？</li> <li>・はい。船で(貯木場まで) 運べばいいのに、途中で、降ろして、別の船で引っ張って行くのはなぜだろう。</li> </ul>
---	--

<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうですね。(「船で貯木場まで運ばいいのに、途中で原木を筏に組んで、他の船で引っ張って行くのはなぜだろう?」と板書)</li>   <li>・では、この資料が参考になるかな (大型化する木材専用船と必要な水深を表した表)。</li>   <li>・何の資料?</li> <li>・はい。はい。はいこれね。(松永湾の平面図)</li>   <li>・なるほどね。海の深さが10mというわけね。それが、どうしたん?</li>   <li>・そんなに、きつく言わなくても…。</li> <li>・じゃあ、これは? (『世界の港湾取扱貨物量ランキング推移』) を配布する。</li>   <li>・どうして?</li> <li>・はいはい (『大型化が進むコンテナ船』を配布する)。</li> <li>・何が? やっぱり?</li>   <li>・と言うことは、尾道糸崎港松永湾から分かることは、どんなことかな? 我が国の港は大型化する船に…。</li> <li>・どう思う。</li> <li>・尾道糸崎港は、我が国の原木輸入港の第2位でしたが、では、日本一船の出入りする港は、どこでしょうか?</li>   <li>・横浜? 神戸? 残念でした。ヒント、広島県にあります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい。貯木場に並べるときに便利だからだと思います。</li> <li>・それだったら、貯木場で並べても同じだと思います。</li> <li>・う～ん。</li> <li>・あっ! はい。大きな木材専用船は貯木場まで行くことができないと思います。</li> <li>・同じです。物をたくさん積むとそれだけ船は沈んでしまうので、38,000 tの大きな木材専用船は入られないのだと思います。</li> <li>・先生! 資料! 先生、早く資料!</li> <li>・海! 海の深さ!</li> <li>・ええ～と。</li> <li>・(あちらこちらで) これ? 10m?</li> <li>・分かった。はい。ここにマイナス10mと書いてあるので、普通10mだったら、土地の高さが10mだけど、マイナスとなっているから、これは、海の深さが10mだと思います。</li> <li>・同じです。海の深さが10mだと思います。</li>   <li>・もう。海の深さが10mだから、38,000 tの木材専用船は12m必要だから、貯木場まで行けません。だから、ここで原木を降ろして、筏にして、他の船で運ぶんです!</li>   <li>・何これ? めちゃくちゃ落ちとる!</li> <li>・はい。落ちたと言うより、他の港の方が上がったのだと思います。理由は、それまで下の方にあった港の名前が上の方にあるからです。だから日本の港のランキングが下がったのではなくて、他の港のランキングが上がったのだと思います。</li> <li>・先生! 資料! 資料!</li> <li>・お～。やっぱり。</li>   <li>・(あちらこちらから) はい。はい。はい。</li> <li>・日本に立ち寄ることができるコンテナ船は、9,300個だから、それ以上の大きいコンテナ船は入ることができません。</li>   <li>・(みんな大きな声で) ついて行っていない。</li> <li>・世界に遅れる。大丈夫かなと思う。</li>   <li>・日本一! 船の出入りする港?</li> <li>・(あちらこちらで) 横浜港～。神戸港～。</li>   <li>・(あちらこちらで) 広島港～。呉港～。宮島!</li> </ul>
---	--

<p>・おっ、宮島港。宮島は第2位！ ・正解は、因島土生港！</p> <p>・そうです。因島の土生港。私は因島の土生町から通っています。 ・さあ、どうしてでしょうね。この続きは、次の社会科の時間に…。これで、終わります。</p>	<p>・え～、2位～？ ・えっ？因島？土生港？ ・それ、先生の所じゃ！</p> <p>・なんで？どうして？</p> <p>・（あちらこちらで）え～。 ・ありがとうございました…。</p>
--	---

※本授業では、尾道糸崎港の原木輸入量は、56万4千tであり、全国第2位であった2011年の資料を用いて行っている。2014年では、65万4千tで、全国第3位であった。

※「入港船数日本一の因島土生港」について

広島県尾道市因島の土生港へ入港する船は、2015年には、65,101で全国1位。第2位は、厳島の60,443であった。2016年も土生63,382で、厳島は60,982で、土生港の全国1位は変わっていない。しまなみ海道が開通して、定期航路は減便されたが、橋の架かかっていない島々で暮らしている人々にとって、船舶以外の交通手段はない。また因島や弓削島などの学校に通う生徒や、病院に行く高齢者、自動車を運転しない（できない）人たち、いわゆる交通弱者と呼ばれる人々にとって、船は生活に欠かすことのできないものなのである。因島土生港に入港する船は、生活の船であり、厳島に入港する船は、観光客を運ぶ船なのである。

## 5. おわりに

本授業は、尾道糸崎港という地域教材を用いて進めた。小学校4年生であるので、尾道糸崎港機織地区（松永湾）の学習だけで終えてもよい。しかし、我が国の港湾の現状を学習できる教材でもあるので、尾道糸崎港を、水深が浅く大型化する船舶に対応していないという我が国の港湾の典型として扱うことにした。

我が国の港湾の問題は、水深だけでない。その他にもバースの長さや広さ、ガントリークレーンの台数等もある。もちろん、そのような問題に対して努力もなされている。施設や設備だけでなく、港湾使用料といったものから、港湾での仕事、働く人々の工夫や願いや思いなどもある。一口に「港湾」といっても、その内容は多種多様で複雑であり、専門的でもある。「港を見学して、いろいろなことを学ぼう」などと呑気なものではない。「いろいろ」が、一カ所に集まっており、複雑に関係しているので、どこに学習の焦点を絞るかが大きな問題となる。そこで、前述の本単元を構成するにあたり行った教材研究の結果、期待できる効果として、次の5点に絞ったのである。その5点について、本実践を振り返ってみよう。

○ **地域教材は、学習への意欲化を図ることができる。しかもその港が、日本を代表する原木輸入港であることを知ることで、学習意欲をさらに育てることができる。**

自分が知っている地域が扱われることは、大人でもわくわくするものがある。テレビで自分たちの地域が映し出されると見入ってしまうだろう。しかも本実践では、地域の港が全国第2位の原木輸入港という事実が、さらに学習意欲を高めていった。授業中、児童が歓声をあげたことから分かる。

○ **東西18kmに及ぶ尾道糸崎港の地形的特徴から、港は地形ではなく、機能であることをとらえさせることができる。**

東西 18 km という独特の形状が功を奏している。湾＝港というとらえをしている児童にとって、尾道糸崎港はどう見ても湾ではない。湾と呼べる地形は、松永湾くらいのものである。また、福山方面から電車通学している児童が、JR 山陽線沿岸に、数隻の船舶が停泊しているのを日頃から何気なく見ているという事実が、港とは地形と関係しないということをとらえることに繋がっている。

- 「日本で第2位の原木輸入港なのに、原木が見当たらないのは何故か」「貯木場まで、木材専用船で運べばいいのに、沖合泊地で原木を投下し、筏に組んで貯木場まで他船で曳航しているのは何故か」という学習問題は、社会的認識を育てることができる。

本授業は、一つの学習問題のように見えるが、実は2つの学習問題で構成されている。この2つ学習問題は、児童の既存の知識だけでは説明できないので、さしあたり持っている知識から予想するしかない。それを確実なものとするために、新たな知識を取り入れようとする。これが「先生！資料！」という声となって現れている。

- 尾道糸崎港の課題は、我が国の港湾の課題の典型であり、尾道糸崎港を学習することを通して、我が国の海運における港湾の現状をとらえることができる。

港湾の水深という問題に絞ったので、尾道糸崎港の問題は、我が国の港湾の問題の典型として使えた。この事実をとらえさせるために用意した資料は、小学校4年生用に加工したものではない。また、資料の見方を説明したわけでもない。しかし、児童は読み取っていった。これは、どうにか問題を解決しようとする姿勢が強く表れた結果である。この点については、上記3点目と深く関わっている。

- 世界の港湾と比較する学習活動を通して、我が国の港湾の現実を知ることになるので、世界の主要港湾の存在に気付くことができる。

「世界の港湾取扱貨物量ランキング推移」から、シンガポールや香港、上海などの主要港湾の存在に気付いていった。特に「日本の港が落ちたのではない。他の港が上がったのだ」と読み取ったのには、正直、驚いた。理由も「それまで下の方にあった港の名前が上の方にあるからだ。」と的確であった。このような資料の読み方をすると、思ってもいなかった。時に、子どもは教師の予想を上回るものである。それは、教師にとって非常に喜ばしいことである。この時、私は背中にゾクゾクするものを感じていた。

海事教育の授業化に向けて、教材研究を進める度に、四方を海に囲まれた我が国は、果たして「海洋国家」といえるのかどうか。問題意識は、深まるばかりである。海との関係を絶った「海洋国家」は存在しない。それは、我が国の歴史が証明している。太平洋戦争で、我が日本商船隊が壊滅したその時、我が国はどのような状況に陥ったか。

私たちは、自分たちの暮らしを支えている船の存在や海運の存在をもっと知るべきである。かつての社会科には、それがあった。しかし、目に見えにくいことから徐々に遠ざけてしまったのではないだろうか。

次期社会科学学習指導要領には、多くの人々の働きにより、わずかであるが「船舶」「海運」の言葉が見られるようになった。我が国に「海洋国家」としての自覚を再び呼び起こす機会である。そのためにも、これからも「海から見た社会科」の教材を開発していこうと考えている。

## <参考文献>

- (公財) 日本海事広報協会編集『日本の海運 SHIPPING NOW 2017-2018』  
(一社) 日本船主協会監修『海運統計要覧 2017』2017年12月15日発行  
尾道糸崎港機織地区国際物流ターミナル整備事業 2018年1月22日閲覧  
[http://www.cgr.mlit.go.jp/cginfo/koukyouhyouka/2016/pdf/H28-5\\_data6-2.pdf](http://www.cgr.mlit.go.jp/cginfo/koukyouhyouka/2016/pdf/H28-5_data6-2.pdf)  
有限会社歌港組企業情報(会社概要) 2018年2月2日閲覧  
<http://utakoh.com/02.htm>  
尾道糸崎港平面図 2018年1月4日閲覧  
[https://www.pa.cgr.mlit.go.jp/hiroshima/docs/kyosoryoku/onomichiitozakiko/area\\_onomichi.pdf](https://www.pa.cgr.mlit.go.jp/hiroshima/docs/kyosoryoku/onomichiitozakiko/area_onomichi.pdf)  
数字で見る港湾 2015 2018年1月6日閲覧  
[https://www.phaj.or.jp/distribution\\_2017/lib/kouwan-2015.pdf#search=%27%E6%95%B0%E5%AD%97%E3%81%A7%E8%A6%8B%E3%82%8B%E6%B8%AF%E6%B9%BE+2015%27](https://www.phaj.or.jp/distribution_2017/lib/kouwan-2015.pdf#search=%27%E6%95%B0%E5%AD%97%E3%81%A7%E8%A6%8B%E3%82%8B%E6%B8%AF%E6%B9%BE+2015%27)  
[特集] いま、地方の港が元気です 2018年1月6日閲覧  
<http://www.mlit.go.jp/kowan/minatodayori/53/1-11.pdf#search=%27%E3%81%84%E3%81%BE%E5%9C%B0%E6%96%B9%E3%81%AE%E6%B8%AF%E3%81%8C%E5%85%83%E6%B0%97%E3%81%A7%E3%81%99%27>  
港湾取扱貨物量等の現況 平成27年版 2018年1月6日閲覧  
<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/search/pdf/01/01201500xc0000.pdf>  
港湾取扱貨物量等の現況 平成28年版 2018年8月24日閲覧  
<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/01/genkyo/index.pdf>  
対象船舶の主要な諸元の標準値 2018年1月6日閲覧  
<http://www.mlit.go.jp/common/000206874.pdf#search=%27%E8%88%B9%E8%88%B6%E3%81%AE%E6%A8%99%E6%BA%96%E5%80%A4%27>  
松永下駄について 福山市ホームページ 2018年1月16日閲覧  
<http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/tradition/17272.html>  
福山琴について 福山市ホームページ 2018年1月16日閲覧  
<http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/tradition/17268.html>  
府中家具の歴史 2018年1月16日閲覧  
<http://wpl.fuchu.jp/~kagu/history/history.html>  
世界の港湾取扱貨物量ランキング 2018年1月29日閲覧  
<http://www.mlit.go.jp/common/000228234.pdf#search=%27%E4%B8%96%E7%95%8C%E3%81%AE%E6%B8%AF%E6%B9%BE%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%AD%E3%83%B3%E3%82%B0%27>  
平成27年度 政策レビュー結果  
国際コンテナ戦略港湾政策 国土交通省 平成28年3月版 2018年6月17日閲覧  
<http://www.mlit.go.jp/common/001125138.pdf#search=%27%E5%9B%BD%E9%9A%9B%E3%82%B3%E3%83%B3%E3%83%86%E3%83%8A%E6%88%A6%E7%95%A5%E6%B8%AF%E6%B9%BE%E6%94%BF%E7%AD%96%27>  
競争力のある港づくり 尾道糸崎港 国土交通省中国地方整備局 2018年6月20日閲覧  
<https://www.pa.cgr.mlit.go.jp/hiroshima/kyosoryoku/onomichiitozakiko.html>